








平成22年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
1	稲積花菖蒲園	稲積花菖蒲園	地域の資源である花菖蒲園を活かし、来客者の安全や利便性確保のための整備を行うと共に、地域内の他団体とも連携をとり、地域全体の取り組みとして観光の振興を図るための事業	1,155,000	1,155,000	前年の来客数、約3,000人を遥かに超える、約6,000人の来客数となった。園内通路では、整備前は畦道ですれ違う時など危険な箇所もあったが、安全に鑑賞していただけるよう整備することができた。看板については、まだ数が少なくわかりにくいという指摘もあったため、更なる整備が必要であると感じた。	今後も、誘導員を少なく出来るように案内板の設置箇所を増やし、車椅子でも間近で鑑賞出来るよう引き続き通路の整備を行うなど、安全や利便性の確保に努めたい。	
2	おおずスポーツクラブ(OSC)・サッカースクール	おおずスポーツクラブ	地域づくりを担う人材の育成を目的とし、スポーツを通じて地域との交流や子供の健全育成を図る事業	656,000	299,000	目標の定員と数値には及ばなかった(スクール運営が手探りであったことが原因と考える)が、参加者25名(最大人数)のうち12名がスクールを通じてサッカーを始めた。また、地域のスポーツ少年団等への入団を果たした子どもや、様々なイベントを通じて地域の方々へスポーツをするきっかけ作りができた。スクールでは、現役プロコーチによる育成プログラムのもと、楽しみながら基本的な技術の向上が見られた。	1年間の活動を経たことで、来年度は更なるステップアップを目指すことが可能となった。向上心を目指すスクール生のためにきめ細やかな体制を整える。各種イベントについても規模や参加枠を増やすなど大々的に行うことを計画している。	
3	新正山文化芸能相承	遊鼓	和太鼓を使って郷土芸能の保存伝承を行いながら、新しい文化を創造することにより、地域の発展を図る事業	630,000	630,000	今回購入した太鼓を使って、扇子踊り、手踊り等の集団指導を行い、盆踊りで披露し好評を得た。また、その中で長年途絶えていた標語音頭の収録も行うことができた。その他の行事にも参加して伝統芸能を披露することにより、これらの芸能を広く周知し、今後も保存活動を行うための基礎とすることができた。即効果を求めず、地域が元気になるために、今後も継続して根気よく活動を展開したい。	本活動は、全てボランティアであり、若者にいかに参加してもらうかに今後重点を置く必要がある。地域が元気になるれば、全体が元気になることを信じて、地道な活動を進めていきたい。	
4	「白滝小唄」音楽CD作成事業	白滝フロンティア会	地域の文化財である「白滝小唄」を復興させ、保存伝承する事業	99,000	中止		今回の事業中止は、大洲市の認可を得た事業申請を取り下げたということで、市民や事業を採択いただいた委員の皆さんの期待に背く結果となったことを深く反省している。今後は本件中止について熟考し、地域力を結集して新たな体制での実現に向けて取り組んでいきたい。	
5	新谷夏祭り	新谷商工会	地域の文化財である牛鬼を復興させ、保存伝承する事業を行うと共に、記念行事を開催することにより、観光の振興を図るための事業	270,000	270,000	新谷パレードは、各団体に呼びかけ過去最高の10チーム(約300人)が参加した。それに伴う観客も従来より増えたことにより、新谷地区全体が多くの人で賑わい、夏祭りのみならず、地区の活性化に繋がった。牛鬼パレード復活は実施を断念せざるを得なかったが、商工会の役員に地域の方々を加えて、何度も協議したことで、より連帯感が強くなるとともに、市の支援を受けたことで地域の担い手としてのモチベーションが上がった。	市の支援という評価をいただき、地元の雰囲気も上がり、今までにない協議ができたので、ぜひ次年度は牛鬼復活の取り組みを考えている。また、第20回記念新谷パレードに参加した地元各種団体や中学生・小学生に、夏祭りのみならず他のイベントでも参加依頼をし、新谷地区全体で祭りを盛り上げていきたい。	
6	伝統芸能の保存伝承及び地域特色を活かしたイベント事業	愛郷櫛生一団楽	地域の文化財である牛鬼を復興させ、保存伝承する事業	405,000	405,000	牛鬼を修繕し伝統行事を復活させるという1つの目的に向かい、会員が一致団結し取り組むことができた。また、若年層が地域へ関わることで各種行事を盛大に実施できた。長年の懸案事項であった牛鬼の修繕は、地域全体の願いでもあったため、この事業で実施できたことで多くの方に喜んでいただくとともに、伝統芸能を継承する必要性を強く認識できた。	今年度の事業も含め、来年度もさらに事業展開を拡大し、会員で持ち寄った活性化案の実現を図る。	
7	地域産品を活かした地域ブランド開発事業	愛媛県立大洲農業高等学校	地域産業の活性化を図るため、農産物の生産から加工・販売までの総合産業を研究し、地場産品を活かした地域ブランドを開発する事業	1,462,000	1,178,000	しいたけうどん・ストラップなどの開発及びPR、おうど芋の栽培試験と活用方法の研究、簡易水耕施設での星型・ハート型キュウリの栽培、農薬不使用のペビーリーフの栽培を実施した。また、マスメディア等での紹介、世界ラン展(観客20万人)や各種大会に参加し大洲市の知名度向上が図れたとともに、PR活動を通じて地産地消の推進と大洲のブランド化に努めることができた。	栽培技術の確立、地元農家との連携による収益性の追求、大洲市産業振興課等と連携しさらに地産地消の推進、実績データを継続的に収集する。	



平成22年度大洲市ががんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
8	オオズキャンドルナイト(臥龍山荘の夕べ)	オオズの魔法使い	地域の特色である臥龍山荘を活かし、キャンドルを使った演出、イベントを行うことで、訪問客に地域資源や地球環境についての理解を深めてもらう事業	403,000	403,000	雨が降ったことも「大洲」らしい情緒あふれる雰囲気となり、臥龍山荘入場者70名、会場来場者は1,000人以上となった。丁寧な説明、お茶の接待などを行うなど普段と違った臥龍山荘を演出することで地域資源の魅力に改めて気づいていただけた。また、真穴地区や内子地区などからも協力していただいたことで、南予地区の繋がりとパワーを来場者に感じていただけた。	必ず一年に一回は計画的に開催する。大洲らしい場所や催しを少しでもアピールできるように、自分たちの魅せ方で彩りをつけていき、大洲に住んでいる方たちも少しずつ大洲を見直したり参加できたりするイベントとしていく。	
9	オオズキャンドルナイト(きらめきの大洲城)	オオズの魔法使い	地域の特色である大洲城を活かし、キャンドルを使った演出、イベントを行うことで、訪問客に地域資源や地球環境についての理解を深めてもらう事業	304,000	304,000	雨模様であったが、夜の大洲城入場者が100名近く、会場へも市内外から1,000人近くの来場者があった。開催直前に「東日本大震災」が発生したため、急きょ震災復興支援活動に切り替え開催した。義援金寄付者や地元学校に協力により行ったアート作品の作成や、子どもたちの自主的なボランティア活動への参加により、様々な年齢層の方に大洲城を楽しんでいただくことができた。	今回、大洲城まで上がったことのない方々に対して、大洲城を楽しむきっかけづくりができたと思う。今後もいろいろな大洲の中の観光地に魅力的な魔法をかけたいと思っている。	
10	赤橋自遊空間	長浜なんとかしようぜ委員会	商店街に活気を取り戻し、地域の活性化を図るため、地場産品を活かした地域ブランドを開発する事業	315,000	315,000	天候の影響もあり、昨年度と比較して来場者数に大きな変化は見られなかったが、目玉企画である「うどん食べ放題」の設備の充実や、周知活動を積極的に行うことで、一定の固定客の獲得、地域外からの集客に効果があった。また、地元飲食店や小売店などでは、イベントの出店が良い宣伝となり、通常の営業においても売り上げ増に繋がった。経済効果だけではなく、商店街が賑わうことで長浜地域に活気を与えることができた。	地域にとって定着したイベントとなってきたので、今後は新規出店者と来場者の獲得が重要となってくる。それには今までのような地道な周知活動だけではなく、長浜地域外に向けての積極的な周知活動をしていくことが必要である。それと並行して、他の地域にはない独自のイベントを確立していき、長浜地域の活性化に繋げていきたい。	
11	大川鯉のぼり川渡し事業	大川自治振興会	寄贈された全ての鯉のぼりを設置するための整備を行い、住民活動を発展させることで、観光の振興を図るための事業	1,193,000	1,193,000	この事業により、寄贈いただいた全ての鯉のぼりを掲揚することが可能となり、かつ「大川」「肱川」「大洲」を更にPRすることができた。さらに事業の展開を準備から片付けまで「自分たちに行うことができる自分たちで」と考え、全てボランティアで行うことで多くの地域住民からの協力をいただき、実行委員会委員や当地域コミュニティの結束力と親睦の輪は老若男女問わずに広がった。	今後も現状に満足することなく、「鯉のぼり事業」を通して、地域住民が一体となり、地域活力の増進や地域活性化に繋げたい。地域の団結力を高め、多くの来場者に喜びと感動を与えることで「地域の幸せ」を得るように意識し、取り組んでいきたい。	
12	地域資源開発事業(地産地消スイーツ開発事業)	大洲スイーツ百物語実行委員会	地産地消を目的とした特産品開発を通じて、生産農家と加工・販売業者とのネットワーク化を進めると共に、新しい地域ブランドを開発する事業	250,000	250,000	試食イベント来場者:約200人、参加業者:9店舗、開発製品数10種類(内8種類を正式に商品化)。生産と販売のネットワーク構築に刺激を与えることができ、果物の生食を同時に開催することで、日頃よりも販売量が増え相乗効果が得られた。商品開発は、完成度を上げるための時間の不足、開発途中で一部原材料の供給が途絶えてしまうケースが発生した。一次産業の生産期間には限りがあり、試食から商品化まで質の保たれた原材料を定期的に供給できる体制の確立が望まれる。	年1度の試食イベントを定期化し、参加店舗の幅を更に広げるとともに、農業生産者側の参加の厚み、原材料の幅の広がりを目指す。その一方で、原材料及び開発商品の質の向上を目指し、商品化される製品数の拡大を図りたい。また、産業フェスタの様なイベントとのコラボや、特定の素材に限定してのフェアとしての開催も視野に検討していきたい。	
13	地域資源再発見、開発事業	大洲まちづくりリーサロン実行委員会	地域資源を再発見するための情報収集を行い、新しい角度からマップ化することにより、観光を振興するための事業	275,000	250,000	地域特性を再認識するというマップ作りの意義についての理解を深めることができ、今まで取り上げられることがあまりなかった内容について新しい角度から見直すことで、地域の魅力を再発見することができた。町並み散策での会員以外の参加者が少数にとどまり「住民間での地域特性の再認識への寄与」については、あまり効果を発現するには至らなかった。	大洲スイーツ百物語実行委員会等との連携も継続しながら、マップ作りと商店街等の活性化イベントを連携させた試験事業や、より踏み込んだ形で住民参加型のマップ作りについて検討を加えていきたい。	
14	にぎわい大洲が ンばる商店街	大洲スタンプ協同組合	商店街が協働してイベントを行い、自助努力の必要性を再認識することで、地域が抱える課題を解消するための事業	1,752,000	1,752,000	「協働」することで各種イベントの内容の充実が図られ、来場者も大幅に増加し、来場者からも楽しめる魅力あるイベント内容だったと好評をいただいた。また、売上の増加とともに若手の参加・個店の協力体制の強化、他の商店街からの参加への意欲など「協働」の輪が広がりはじめている。商店街へ行く楽しさの創出に向けて新たなスタートを切ることができ、自助努力への意識が高まり更なるにぎわいが期待できるようになった。	今年度と同様に住民に対する商店街の役割を維持・向上して、地域にとって必要とされるようさらに結束するとともに、事業を一過性のイベントで終わらせることなく、他の商店街にも連携の輪を広げ継続的な事業を展開していきたい。多くの高齢者を抱えた商店街のあり方を模索しながら、地域の人々に必要とされ愛され、持続できる商店街とするために取り組んでいきたい。	

平成22年度大洲市がんばるひと応援事業 実績

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	交付額	事業の実績・効果	今後の取組方針	写真
15	ほたるの里づくり事業	柳沢自治会	ゲンジボタルを活かした地域づくりを行う中で、訪問客にホタルへの理解を深めてもらうため、生態などを説明した看板を設置し、観光振興を図るための事業	573,000	573,000	ほたるボランティアガイドの活動や毎日更新されるホームページのホタル情報などにより、今年度のホタルまつりには2週間で1,800人(田処地区のみ)の方にお越しいただいた。看板整備が完了したのが3月のため、実際に利用して案内を行うことができなかったが、少しでも興味を持っていたけよう写真を多くしたり、わかりやすい表現にするなど、製作を行う中でどのようにすれば多くの方に喜んでいただけるかを考えるきっかけとなり、今後の活性化に繋げることができた。	少子高齢化に伴い、今後の住民活動が懸念される場所ではあるが、「ゲンジボタル」や「藤縄神楽」など地域資源を保存・継承しながら、新しい魅力を生み出していくため、閉校となった小学校の跡地利用も含め、地区住民が一体となって取り組んでいきたい。	
16	だんだんVOL. 6	だんだん	おしゃれなお店や美味しいお店、お勧めの風景など、独自の視点による情報誌感覚のマップを作成することで、観光の振興を図るための事業	247,000	229,000	多くの市外の方に手にとりいただき、それにより市内のおススメスポットへの連携ができた。視点を変えたマップ作りをすることで、大洲市に対するイメージアップが図られたと思う。また、市内の方にもマップを通して今まであまり知られていなかった地元スポットに興味を持っていただけたことで、自分たちの町への愛情も増え、自信を持って観光客などに地元愛を伝えることができるきっかけ作りができた。	今後も二巻、三巻と続けて発行を行い、様々な大洲のおススメスポットを紹介していきたいと思っている。また、いろいろな角度で紹介することにより、大洲のイメージアップや大洲を知っていただけるきっかけ作りの一助になればと思っている。	
	合計			9,989,000	9,206,000			